＊「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。　№183　2021.05.31

リクビダートル（事故処理作業者）の雄、オレーグさん急逝！

（池田 光司）

＜オレーグさん（左）とチュマクさん（右）2011 年撮影＞

5 月 11 日、ホステージ基金のドンチェヴァさんからチェル救にメールが入りました。

「オレーグ・タヴャンスキーがコロナで死亡しました。彼は奮闘し、コロナと戦いました。しかし体が弱すぎました。放射線と戦ってきた男は、パンデミックに対して無力でした。」

あまりにも突然の訃報でした。事故当時 30 才、事故から 35 年、65 才での死でした。

オレーグさんは、チェルノブイリ原発事故の際、ジトーミル消防署副部長として事故処理作業に当たられました。事故後も、消防署や「チェルノブイリの消防士たち」で中心になって活躍され、自分と同じように放射能被曝の影響に苦しむ仲間を支え続けられました。亡くなられる直前の病床で、酸素吸入を受けながらも、仲間の心配をされていたそうです。誠実で温厚な人柄は、多くの人の心の支えとなったことと思います。チェル救にとっても、なくてはならないパートナーのお一人でした。

今回のポレーシェでは、オレーグさんを偲ぶ記事を特集しました。オレーグさんをご存知の方はもちろん、ご存知でない方も記事を読んで、オレーグさんをぜひ記憶に留めていただければと思います。ドンチェヴァさんのメールには、次のように書かれてありました。「彼をヒーローとして、友達として、そして素敵な人として、私たちの記憶に残しましょう！」そして、亡くなられたオレーグさん、残されたご家族と仲間の方々の平安を祈っていただければと思います。

〒460-0012　名古屋市中区千代田 5 丁目 11-33　ST プラザ鶴舞 本館 5 階 B
NPO 法人　チェルノブイリ救援・中部
銀　　行　　名：**三菱 UFJ 銀行 高畑支店（店番号 297）**
口　座　番　号：**普通 1682863**
口　座　名　義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部　理事長　池田 光司
郵　便　振　替：00880-7-108610
ＴＥＬ／ Ｆａｘ：**052-228-6813**（月･水･金 10:00 ～ 17:00）
＊ 5 年前に電話番号が変わっています。お間違いがないよう もう一度ご確認ください。
ホームページ：http://www.chernobyl-chubu-jp.org

オレーグ・タヴャンスキーさんを偲んで

オレーグさんご一家のコロナ感染を聞いて心配していましたが、オレーグさんの訃報に接し寂しい限りです。長年の親しいウクライナの友人が、また一人居なくなってしまいました。私たちが知り合った 35 年間を振り返ると、常にオレーグさんの温かな微笑みが思い出されます。

2015 年 4 月のチェルノブイリ事故 29 周年の追悼式に参列した後に、「チェルノブイリ消防士基金」の事務所をお訪ねしました。代表のチュマクさんとともにオレーグさんから、事故処理作業者の消防士さんたちのその後の健康状態や問題などをお話しいただきました。

また、市民図書館で開かれた写真展「チェルノブイリの肖像」のオープニング・セレモニーには、オレーグさんはハリーナ夫人と連れ立って来られて、事故直後の事故処理作業の活動等の記録写真をご夫妻と一緒に見て回りました。

＜左より 原さん、竹内さん、戸村さん、
ハリーナさん、オレーグさん（2015 年撮影）＞

私たちの訪問時に、いつも部屋から最後に出る人をドアで待ちエスコートされていたイメージが焼き付いています。それなのに、今回は逆で先に逝ってしまわれ、向こうで私たちを待っていてくださるのだなと思います。（戸村京子）

＊＊＊＊＊

オレーグ・タヴャンスキーさん、初めてお会いしたのがいつだったか、もう思い出せないのですが、私が「救援・中部」の派遣団通訳としてジトーミルを訪ねるたびに、顔を見せてくださいました。やはり元消防士で事故処理作業者のレオニード・アントニュークさんと一緒にお会いすることも多かったのですが、恰幅もよく押しの強い語り口のアントニュークさんに対し、物腰柔らかく淡々と話されるオレーグさんは対照的で、いいコンビでした。

いつの頃からか、オレーグさんはウクライナに住んでいた私の誕生日にお祝いの電話をくださるようになり、私が 2013 年に帰国するまでそれは続きました。でもここ数年、ヴィデオの映像などでお見掛けする彼はめっきり老け込み、心なしか声にも張りがなく、入退院を繰り返されているとのことで、私は気になっていました。昨年、チェルノブイリの日を前にした地元のニュースの動画では、「私の夢は健康、そして人々が病気にならないこと。そのほかにはお金も、何もいらない。そしてあんな事故がもう二度と起こらないことです」と語っておられました。本当に、優しい方でした。ありがとうオレーグさん、あなたの思い出は私たちと共に生き続けます。　（竹内高明）

オレーグ・タヴャンスキーさん（当時 43 歳）の講演録

（消防署技術部副部長 事故処理作業者協会の国際交流と薬品購入など医療問題担当）

＜左より オレーグさん、アントニュークさん、
通訳のタチアナさん 1998 年撮影＞

私たち処理作業消防士達は、チェルノブイリを思い出すことが好きではありません。もちろん詳細でさえすべて記憶に残っていますが、思い出すと再び事故を実感し、同僚を失ったり、母親達の悲しみにあふれた目を見たり、その涙を頬で感じることになるからです。しかし、チェルノブイリを忘れません。皆さんが忘れないことも望んでいます。事故そのものだけでなくその結果や被害者、そして自分の命を捧げた、薄いラバースーツに身を包んで炎に向かった人たちのことを忘れないでほしいのです。

チェルノブイリは全世界規模の惨事です。私たちだけで克服することは永遠に不可能でしょう。そして時間が経つにつれ記憶も薄らいでいます。現在多くの人たちはその恐ろしい日々を忘れていて、チェルノブイリを自分の災害と実感していません。だからこそ、私たちは 1 万キロ離れている日本の皆さんが、私たちの痛みを分かち合い、決して余っているお金ではないのに援助してくださることに深く感動しています。

チェルノブイリ事故のことは 86 年 4 月 26 日の朝、当時私が消防署副部長として出勤したとき、監視室に事故を知らせる電報と消防士全員の臨戦体制移行司令が届き分かりました。5 月 10 日、チェルノブイリ市に到着したら町の洗浄作業の司令がくだされました。この仕事は昼も夜も休みなく続きました。私たちは 8～10 人ずつ消防車か装甲車に乗って原発に行き、コンクリートミキサー車に水を汲み入れてその混合物を配管で原子炉の下へ送り出しました。

自宅へ電話をかけたとき、妻は涙いっぱいで言葉が出ませんでした。彼女は早く戻るように、身体に気をつけるように、「あなたは私たちに必要なの」といいました。それ以来電話をかけることができませんでした。家に残って私たちを待っている人のことを思い、彼らを守るためにできる限りのことをしました。一緒に作業をした多くの人たちはすでに亡くなっています。

住民が立ち去った村を訪れて、非常につらい思いをしました。5 月 13 日に、もう地図にのっていないある村の火災消火に行き、作業終了後村を歩きました。住民がいなくて家が空っぽで、猫の群れだけがいました。いきなり消防署に大きな犬が走りよって前足でドアを引っ掻き始めました。私たちは手持ちの食料の一部を分け与えました。犬は人間がどこへ、なぜ去ってしまったのか理解できないのだと思いました。私たちが帰るとき、犬は長い間後ろを追いかけてきました。チェルノブイリは事故の技術的な面だけでなく、人間の災難や膨大な環境的惨事も知らしめました。もし核戦争が起きたらどうなるか、誰も生きて残ることがないでしょう。

現在皆さんの救援のおかげで事故処理作業者協会は会員達に医療、食料の援助や健康診断を行っています。また無線機、防火衣が購入されました。日本の皆さんに深く感謝しています。

（注）ポレーシェ 45 号に特集記事が掲載されています。詳しくは下記を参照してください。

http://www.chernobyl-chubu-jp.org/-src/sc498/poreshe045_19980531.pdf

＜2021 年度通常総会＆チェル救デーのご案内＞

今年度の総会を、下記要領に示しますように会場に集まる形（リアル会議）で開催することとしました。会場の換気、間隔を開けての着席、マスク着用、手の消毒等の感染対策を施しつつ、会員の皆さまと直接交流できる場となればと思いますので、ご予定いただくようよろしくお願いします。

ただし、現在、愛知県に緊急事態宣言、岐阜県と三重県にまん延防止等重点措置が発出中ですので、感染状況によっては、会場での開催を取りやめ、正会員のみなさまに昨年と同様書面での表決をお願いする形に変更になる場合がありますこと、ご了承ください。変更になった場合は、速やかに正会員のみなさまにご連絡いたします。

今年度は、会場でみなさまとお会いできることを祈っております。

★ 開催日時　2021 年 6 月 12 日（土）13 時 30 分～16 時
- 総会　13 時 30 分～14 時 30 分
- チェル救デー　14 時 45 分～16 時 ☆

★ 場所　名古屋市東区生涯学習センター・第 2 集会室
地下鉄新栄下車。①出口より北へ徒歩 4 分

☆ チェル救デー
ウクライナと福島での活動を知っていただくために･･･
① ウクライナ現地から届いたビデオ動画「福島第一原発事故 10 周年・ウクライナからのメッセージ」上映。
② 新たにスタートした、南相馬市での地域福祉活動「油菜ちゃんを贈ろうプロジェクト」のご紹介。

ウクライナ情報 ･･･3 月第 4 週から 5 月第 2 週まで

★ ミルク支援

3 月 27 日、「粉ミルク・キャンペーン 2021」は続いているとの情報がホステージ基金から届いた。支援先のすべての病院は粉ミルクを受け取り、4 月 1 日までに各支援先からホステージ基金に報告が届き、写真をホステージ基金のフェイスブックにアップ。

支援先からの報告の一部を以下に。

＜ナロジチ地区中央病院＞

汚染地域の病院。被災者の資格を持つ子どもたちはすでに 3 世代目で、特別の注意とケアが必要である。必要としているのは、一般的なミルクで、経済状態が厳しいため粉ミルクが買えず、放射能測定をしていない自宅の乳牛の乳を新生児に与えている家庭に提供される。

- 患児 21 名
- 患児の診断名・病名：
  便秘を伴う過敏性腸症候群、消化機能障害、中枢神経系疾患による運動障害症候群、中枢神経系の低酸素性虚血性病変、過剰興奮性症候群、先天性梅毒、急性気管支炎、両側性市中肺炎、急性気管支炎

＜ジトーミル州立特殊孤児院＞

州立小児病院で医療サービスを受ける親権を放棄された子ども達は、退院後、州立特殊孤児院に引き取られる。同院には 86 人の子ども達がいる。院長の要請で、フルーツ・肉のピューレ・フルーツジュースを購入。孤児と親が親権を放棄した子ども達のために。これらは、年長の子ども達にとってのチョコレートのようなものだが、この子たちにはチョコレートをくれる「ママ」や「パパ」はいない。その代わり、日本で寄付をしてくれる「ママ」や「パパ」たちがいると、現地からの報告。

・57 名（うち 21 名が障害者資格あり）
・患児の診断名・病名：
過敏性腸症候群、消化障害、中枢神経系疾患による運動障害症候群、中枢神経系の低酸素性虚血性、病変先天性異常、発育不全、精神および行動の障がい。

＜バシェク記念ジトーミル市立小児病院＞

ジトーミル市在住の子ども達が治療を受けている。特殊粉ミルク（抗アレルギー、ビタミン配合、ラクトフリー）に重きを置いている。それらは、非常に高価で、全ての家族がそのような治療用粉ミルクを購入できないので。これらの特殊ミルクが病院に届いたとき、医師達は「これで病期の子ども達にこのミルクを処方できる」と喜んだ。

・2020 年中に 5,000 人が治療を受け、うち 1 歳未満が 500 人。
・患児の診断名・病名：
腸の感染症－856 名（16%）、消化器官疾患－300 名（5%）

＜ジトーミル州立小児病院＞

地元の病院が治療できないような、非常に深刻な病気の子ども達の治療を行っている。ここでは、治療目的の粉ミルク、吸収不良症候群対応や低アレルギー性のものが主である。これらのミルクを提供される子ども達は、親権を放棄された子ども達である。これらの乳児たちは 100%深刻な疾患を抱えており、特別な栄養とケアを必要としている。未熟児セクションの医師の話では、「この子たちは、基本的にあなた方のミルクのおかげで助かっているのです」と語る。

・年間 12,000 人が治療を受け、うち 1 歳未満は 2,000 人、新生児 800 人。
・患児の診断名・病名：
未熟児、過敏性腸症候群、胃の機能障害、外科系の障害、HIV 感染者の母親の子ども

★ ナロジチ病院支援

ナロジチ地区病院では、検査室用機器の納入について、工場と交渉中だったが、血液分析器の購入を決定し、4 月末納入した。血液・血清・血漿・尿中のバイオマーカーを速やかに測定するための装置。Ukrinbank から払い戻された金額 62,038.21 グリヴナ（244,430 円）による。

★ 事故処理作業者支援

4 月 1 日から「事故処理作業者支援 2021」キャンペーンを開始。被災者団体（基金）は、支援を受ける事故処理作業者のリストの準備作業を進めた。

尚、2020 年暮れに助成決定した庭野平和基金の助成金による支援の医薬品は、すでに、「プリピャチ・センター」のメンバーたちが受け取っているが、そのほか、事故処理作業者の消防士たちの寡婦を含め、222 名がチェルノブイリ原発事故 35 周年の際に受け取る。最終的には、4 月末までに、医薬品の配布を終わらせる。医薬品代として、庭野平和財団より 78 万円助成。

「チェルノブイリ原発事故 35 周年」によせたメッセージ（p10～p11 参照）をチェル救メンバーよりウクライナへ送った。

● ウクライナの新型コロナウイルス関連情報

・ウクライナでの新型コロナ新規感染者数は跳ね上がり、死亡者も多い。1 日あたりの新規感染者数は、3 月 25 日に 16,669 名と記録を更新。(これまでの最高値は 11 月 28 日の 16,294 名)。また、赤いゾーン（最も深刻なエリア）に分類されている州の数も増えている。休日には、薬局と食料品店以外、すべてが閉鎖。ドクターは、「どこにも外出せず家に留まり、公共交通機関を使わないように」と強く要請している。チェルノブイリ・セクションは、脳卒中と梗塞専門のセクションに切り替えられつつあり、州立成人病院もほぼ満床になっている。

・ホステージ基金のドンチェヴァさんの息子さん家族、事故処理作業者協会のオレーグさん、ナロジチ地区病院バシュクさんなど、支援対象関係者のコロナ罹患が伝えられてきた。
その中で、チェル救とも大変深い交流があり、1998 年 4 月に来日して各地で講演活動を重ねたオレーグさんは、5 月 7 日、コロナとの闘いに力尽き、逝去された。
ドンチェヴァさんからの悲報がチェル救に届いた（p1 参照）。

以下、奥さんのハリーナさんの話。

「彼が自宅で療養していて、入院を遅らせたのがいけなかったのです。その後、内務省病院に入院しました。愚痴をこぼさず、その間に病状が悪化しました。それがオレーグの性分なのですが、妻や家族も皆コロナウイルスに感染していたので、彼らに心配をかけたくなかったのです。ずっと彼らを励まし続け、『全然大丈夫だ、自分はもうよくなってきた』と言っていました。呼吸困難が激しくなり、人工呼吸器も効果がなくなってきた時、医師たちは警鐘を鳴らし、早急に州立成人病院の集中治療室に移されました。でもそこではすぐに、もうチャンスはないと言われました。しかし彼はまだ病気と闘ったのですが、5 月 7 日、午前 7 時に亡くなりました。コロナウイルスに感染していたため、告別式も埋葬も厳しく人数を制限して行われました。それでも家族は、非常事態局に 30 分だけ彼を運び入れました。事故処理作業者の英雄とお別れをしてもらうために。」

ご家族が感染している中、自らのことは二の次にして家族を励まし、また、他の事故処理作業者たちを気遣っていたというオレーグさん。既に手遅れになった状態で、入院され力尽きた。事故処理作業者として、チェルノブイリの過酷な放射能汚染下で命を賭して作業を行い、その後も、チェルノブイリの消防士基金で、作業者たち、現役の消防士たちのために働いた。勇敢で心優しいオレーグさんのご冥福を心よりお祈りする。（山盛）

連載 134

トリチウム汚染水の海洋放出について（その 2）

---- トリチウム汚染水の真実 ----

政府はこの 4 月 13 日、福島第一原発で貯蔵中の放射能汚染水の海洋放出を閣議決定した。事故から 10 年目を迎えた福島第一原発は、いよいよ汚染水対策を迫られる。これまで貯まり続けた放射能汚染水は 120 万トン、貯蔵タンクは 1,200 個を超えた。この中のトリチウムの総量は 860 兆ベクレル（8.6×10^{14}Bq）。これを東電の排水基準（1,500Bq/l）にするには 5.7 億トンに希釈する必要がある。これを毎日 86,400 トン（毎秒 60 トン）18 年間流し続けなければならない。こんな事で廃炉作業の敷地を増やす事は出来ない。

今なお増え続けている汚染水

最大の問題は汚染水の量である。事故から 10 年経た現在、メルトダウンした炉心の冷却に、毎日 150 トンの冷却水を炉心に注入している。その他に、地下水流入も未だに止められていない。このまま汚染水の海洋放出を認めれば、汚染水を作りながら流し続ける事になり、終わりの見えない放出を認める事になる。更に、今年の 2 月 13 日の地震で格納容器のひび割れが広がり、内部の冷却水漏れが増加して炉心の水位が下がったので、東電は投入する冷却水を増やすという (既に増やしているかも)。

汚染水を処理水と偽る東電

貯蔵中の汚染水は多核種除去設備（通称 ALPS）で処理したので「処理水」と東電は言い、マスコミもそれを鵜呑みに報道している。だが事実は全く異なる。120 万トン総てにトリチウムが除去されないまま残っているが、それだけではない。その 7 割にはトリチウム以外のストロンチウム 90 やヨウ素 129、ルテニウム 106 等の放射性核種が、基準値を超えた濃度で含まれている。東電は再処理でこれらを除去すると言うが、その根拠は明らかでない。

最近、更に厄介な汚染が明らかになった。汚染水には炭素 14（C14：半減期 5700 年）も含まれている。また、タンクの一部から硫化水素が漏れ出している事が分かり、調べたところ硫酸還元菌が見つかった。汚染水タンクの中でバクテリアが繁殖し、酸欠状態なので水中の硫酸イオンを還元して繁殖していたのだ。炉心に注入している冷却水は勿論蒸留水ではないし、流入地下水には、土壌中の様々な無機イオンや有機物も当然含まれている。これらが細菌の餌になる。ALPS 処理水は、単純なトリチウム汚染水ではない。

因みに 1979 年に事故を起こしたアメリカのスリーマイル島原発は、廃炉作業で内部をあけたところ、圧力容器の中で藻が繁殖していた。細菌が繁殖する福島原発の汚染水にも当然、有機物が含まれているはずで、トリチウムは有機結合トリチウム（OBT）の型で存在する。これが海洋放出されれば、海藻や魚介類のトリチウム汚染は、単なるトリチウム水とは異なり汚染が格段に高くなる。東電は、風評対策にトリチウム水で魚の養殖試験を行うというが、全く意味がなく、OBT を含む汚染水で養殖すべきである。

まず事実を明らかにせよ

上記の様に、福島原発の汚染水は単純なトリチウム汚染水ではない。事故直後の高濃度放射能を含む汚染水から、海水や地下水流入による不純物混入まで、汚染は様々な形で存在する。ALPS が除去できたのは、無機イオンの形の放射性物質だけである。まず明らかにすべきは、1,200 本のタンク全てについてその水質と放射能を分析し、それに基づいて処理対策を策定すべきである。当然時間もコストもかかるだろう。それが原発事故の末路なのだ。

オリンピックが終われば汚染水の海洋放出も出来る、等という愚かな考えを許してはならない。（2021 年 5 月 26 日　河田）

MOTTO 油菜ちゃん

今回は、「油菜ちゃん」を調味料に変身させるレシピをご紹介します。おうち時間も増え、外食がしづらくなった今こそ、「油菜ちゃん」を使って、日々の食卓をグレードアップさせてみませんか。

◆ 大豆ペースト

〔材料〕

・油菜ちゃん	30 g
・水	90 ml
・煮大豆	150 g
・砂糖	30 g
・塩	2 g

〔作り方〕

① 煮大豆、砂糖、塩、油菜ちゃん、水を混ぜてミキサー、フードプロセッサー、すり鉢等でよくつぶしながら混ぜる。

② 硬すぎたら水を加えながら混ぜて適当な硬さに調整する。

◆ ビーガン・マヨネーズ

〔材料〕

・油菜ちゃん	200 g
・成分無調整の豆乳	150 g
・塩	小さじ 1
・砂糖	小さじ 1
・酢（米酢、リンゴ酢等）	大さじ 2.5

〔作り方〕

① 豆乳は冷蔵庫でよく冷やしておく

② ブレンダー又はミキサーに酢以外の材料を上から順番に入れる。

③ ブレンダーを最初は弱く回し、全体をよく混ぜる。

④ 最後に酢を加えて再度よく撹拌する。

⑤ お好みで、胡椒やワサビ、マスタード等のスパイスを入れてもおいしいです。

注：豆乳は必ずよく冷やしてから使う。

注：保存は必ず冷蔵庫で。

どちらの調味料も、お惣菜にのせたりパンにつけたりと、ちょい足し調味料としてもとても使いやすいですよ。添加物は入っていないので、体にとってもやさしいんです。「油菜ちゃん」は食用油にもかかわらずさっぱりしていて、ドレッシングなどにも最適です。

南相馬の菜の花畑を思い浮かべながら、黄金色の「油菜ちゃん」をぜひ味わってください。

〔油菜ちゃんのご注文・お問い合せ先〕
■チェルノブイリ救援・中部 事務局 TEL/FAX 052-228-6813 Email chqchubu@muc.biglobe.ne.jp
■南相馬農地再生協議会 事務所 TEL/FAX 0244-23-5611 Email noutisaisei@yahoo.co.jp

事故処理作業者各基金の近況報告（2021.4 月現在）

	チェルノブイリ障がい者基金	リクヴィダートル基金	チェルノブイリの消防士たち基金	プリピャチ・センター
現在のメンバー数	42 名 （1 級•2 級•3 級障がいの事故処理作業者）	110 名 （14 名は 1 級障がい者、うち 4 名は寝たきり、60％は 2 級障がい者） 昨年中に 13 名が死亡	182 名 （州内の事故処理作業者である消防士）及び寡婦 126 名	128 名 （避難者の家族）
メンバーの健康状態	満足できる状態ではありません。 平均年齢は 65～70 歳で、8 名が寝たきりの病人（1 級障がい者）。主な疾患は、心臓血管系•支持運動器官系•消化器系の疾患で、皆、高血圧症です。	非常に深刻な状態です。 主な疾患は、心臓血管系疾患•糖尿病•神経系疾患で、36 名が腫瘍の診断を下されています。	よくありません。 80％は重篤な疾患で、50％が 2 級または 3 級の障がい者。死因の第 1 位は腫瘍です（眼•喉•口腔）。 疾患としては心臓血管系と骨組織（脚）です。	深刻な状態です。 主な病名は、脳卒中•心筋梗塞•自律神経失調症•骨粗鬆症•甲状腺疾患です。 多くのものが胆嚢の問題を抱えています。
今日最も悩んでいる問題	1 番の問題は、病気の治療です。 国は無償医薬品提供を保障せず、医師たちは無償の処方をしません。検査は有料。第 2 の問題は、5 月 1 日から値上げの公共料金の支払いです。	第一の問題は、健康状態です。 第二は、被災者に関する法律の実施です。予算がないので法律は実施されません。	金銭上の問題です。年金は 4,000 グリヴナ（140ドル）程度ですが、治療は実質上自己負担で、お金が足りません。	経済的な問題です。医薬品を入手し、公共料金を支払い、家族が少なくとも平均的な食事を摂れるだけのお金がありません。
今日の国の保障	悲惨なものです。 予算は半分近く切り詰められ、地方自治体の予算に移行していますが、地方自治体の予算はいつも不足しています。	支援は、必要な分量の 2～3%しか行われていません。 すべてについて予算不足です。治療、無償の医薬品の処方、サナトリウムでの治療、住居の保障など。	支援は顕著に減少しました。 国はチェルノブイリ被災者の年金の問題を検討し、寡婦たちが亡夫の年金を受け取れるようにしようとしています。	医師が無償の医薬品を処方しても、長い順番待ちをし、その結果、すでに処方箋の期限切れや、無償提供予算が尽きていたりします。
支援金の使途	コロナウイルスのため集まれず、活動連絡は電話で行い、今春、42 名がそれぞれ 850G（約 3,400 円／名）の医薬品を受け取りました。	支援を最も必要としている人を調べ（家族の経済状態と障がいの等級）、処方箋に従ってメンバーたちは薬局で医薬品を受け取りました。	提供された医療センター用の機器 2 点は、各地区にも出張し、現役や退職した消防士とその家族の検査を無料で行っています。	医薬品は、ほぼ全員の家族に行き渡りました。 残念なことに効果的な医薬品は非常に高価で、充分に入手できません。

《チェルノブイリ 35 周年に寄せて》…日本からウクライナへのメッセージ

35 年もの間、チェルノブイリと向き合い続ける日々とあなた方の努力は、今は亡き人々の無念を鎮め、今尚苦しみと共にある人々を支え、やがていつか健やかな未来を結実させる礎となるでしょう。原子力の惨事という絶望が私たちを出遇わせたけれど、共有したのは絶望ではなく、協働と今を変える意思、そして友情。あなた方に出遇えてよかった！チェルノブイリからの過酷で多難な道を、希望を失わずに歩み、「福島」での惨事を我が事として受け止め支えるあなた方に、心から敬意を表します。（山盛三千枝）

チェルノブイリ原発事故から 35 年。今年はコロナの流行で皆さんご苦労されておられる様子を伺っています。とりわけ事故処理作業に従事された皆さんは、事故による病気や体調不良に加えてコロナ対策で大変だと思います。できるだけの安全策をとってこの時期を乗り切りましょう。一日も早いコロナの収束と皆さんの健康を祈念します。コロナが終息したら、一番にウクライナを訪問したいと思います。（原 富男）

私達が、初めてジトーミルを訪れたのは、事故からちょうど 10 周年に当たる 1996 年の 4 月でした。私（英樹）は、ジトーミル消防署の記念式典でプレートの除幕式に参加し、慰霊碑に献花をした時、そして看護師をしていた妻（美知江）は、移住者の住む「ゼレムリャ村」の診療所を訪れ、空っぽの薬棚を目にして胸が張り裂けそうになった時、将来にわたって皆様と寄り添い会って行こうと決心をいたしました。あれから四半世紀が過ぎ、この間に我が日本のフクシマにおいても原発事故が発生し、現在に至る 10 年間は、お互いに支えあう、切っても切れない友情で結ばれることになりました。放射能という目に見えない敵と勇敢に戦い、人類を救った事故処理作業者の皆様、未曾有の放射能災害を乗り越えられた被災者の皆様、献身的な治療にあたられた医療従事者の皆様、そして、彼らを支え続けてくださった「ホステージ基金」の皆様に、深く敬意を表したいと思います。これからも、放射能災害という共通の苦難を乗り越えていく仲間として、日ウの友好が末長く続くことを願っています。（神野英樹 ＆ 美知江）

私が初めてウクライナを訪問したのは 1992 年 12 月でした。キリチャンスキーさん、チュマクさん、アントニュークさん、トビャンスキーさん等にお会いした時のことを今も覚えています。原発事故という共通の被害が、私たちの友情を更に深く強い絆で結んでくれました。皆様の幸せを祈って。（かわたまさはる）

私はウクライナに 2 度訪問させていただきました。そして、病気で保養に来ている子ども達と一緒におどったり歌ったり、楽しい時を過ごしました。とても可愛くて、元気で明るく、私たちは逆にあの子達から元気をもらいました。そしてこの子たちに幸多かれと祈り、もう 20 年が過ぎました。（大谷早苗）

事故を起こしたチェルノブイリ原発に向かい、事故処理にあたったみなさまの勇気ある行動によって、事故の拡大が防がれ、世界中の多くの人々が放射能被曝を免れて救われました。原発事故から 35 年を迎えるにあたり、あらためて感謝申し上げます。自身が被曝した放射能と暮らす土地の放射能汚染による苦難は、35 年経った今も続いていると思いますが、お一人おひとりに耐える力が与えられて、希望と平安が与えられますことお祈りします。苦難の中にあるみなさまが、フクシマの原発事故に際して多くの支援とメッセージを寄せてくださったこと、とてもうれしく、心強く感じました。そして何よりも、共に泣き共に喜ぶ友と出会えたことは望外の喜びです。今後とも、お互いに良き友であり続けましょう！

（池田光司）

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

（中島しぐれ）

チェルノブイリの事故から35年が経ちました。皆様にとって過ぎ去った時間は、長かったでしょうか、短かったでしょうか。亡くなられた方のご冥福と今なお苦しんでおられる方々のご回復をお祈りしています。不幸が取り持つご縁ですが、固い友情が今後も続いていくことを信じています。（上田千津子）

35 年、これまで被災者に寄り添い、支援活動を続けてこられたチェルノブイリ・ホステージ基金に敬意を表します。チェルノブイリを過去のものとせず、世代を越えてその教訓を刻み、未来のために何が大切かを伝え合い、学び合いたいと思います。新しい時代を生きる子どもたちのために！（兼松真梨子）

チェルノブイリ事故が起こった35年前の 4月、5月の日々を、今も鮮明に覚えています。ウクライナのお母さんたちや皆さんの暮らしを想像すると、居ても立っても居られませんでした。その同じ思いを、10年前の福島事故でも経験することになりました。そこから得たものは、核のおぞましさと同時に、国を超えた人と人とのつながりとその温かさでした。私たちの心はいつも隣にあり、共に生きています。（戸村京子）

私が原子力発電所の恐ろしさを初めて知ったのはチェルノブイリでした。広島、長崎の原爆や核実験のことは知ってはいましたが、自分が身をもって体験したことではありませんでした。しかし、チェルノブイリ原発事故による放射能は日本にも降り注いだのでした。2回のウクライナ訪問でその恐ろしさの一端を感じることもできました。そして、福島原発事故です。未来の生きとし生けるものたちの為に、地球上から、原子力発電所や核兵器、あらゆる核をなくす努力をしたいと思います。（橋本京子）

35年間、どんなにつらくても笑顔を見せてくれてありがとう。あなたたちの笑顔は私たちの希望です。（市原佳代）

ホームページを修復しています！

遡ること約半年…。年明けに事件は起きました。ずっとサポートの切れたホームページの編集ソフトを使い続けていたのですが、ついに起動ができなくなったのです…。ソフトが起動できなければ更新をすることができません。やむなく新しく編集ソフトを購入することにしました。今公開されているホームページのデータをそのまま新しいソフトに取り込めればいいのですが、どうもうまくいかず、一から作り直すしかないだろうという結論に達し、現在修復中です。修復をしてくださっているのは、ここ数年、ホームページの更新作業をボランティアでやってくださっている I さん。私からの丸投げの依頼にもかかわらず、コツコツと作業を進めてくださっています。本当に頭が下がります。あと少しですが、細かいところの確認作業や微調整に、思った以上に手間がかかっています。現在、ホームページの閲覧は可能ですが、新しい情報を更新することができません。ご迷惑をおかけしますが、公開まで今しばらくお待ちください。新しい情報はブログで更新していますので、そちらをご覧ください。また、これを機に、団体の FaceBook ページを作ることにしました。会員さんの中にも FaceBook を使っていらっしゃる方も多いことと思います。カウンターパートのホステージ基金も FaceBook ページを持っており、頻繁に発信しています。クリスマスカードを受け取った子ども達の写真や、医薬品を受け取る被災者の方々の様子、またチェルノブイリ 35 周年に関わる様々な動画やニュースなどが投稿されています。FaceBook 上でホステージ基金とつながれば、ウクライナの情報もリアルタイムで共有することができます。情報発信が苦手なチェル救でも、少しずつ新たなつながりを発掘できるのではと期待しています。（兼松）

事務局便り

本誌前号・事務局便りで、4 月に控えた測定隊準備の様子をお伝えした。･･･が、測定の態勢今まさに整わん！と思ったその矢先、測定隊中止の決定をせざるを得なくなった。「コロナ」である。参加希望の方々へは、誠に申し訳ないことであったが、ご理解をいただいた。ところが、である。南相馬「とどけ鳥」代表・小林さん情報によれば、「測定をやっています」･･･とのこと。地元と、市外・県外で測定に参加してもよいとの意向を持つ方々で、ぼちぼち測定しているというのだ。で、「6 月中には完了するでしょう」と、嬉しい情報。昨年 4 月にも、地元の方々が中心となって 2 か月半の時間を割いて実施された。今後の測定について、地元の方々と共にじっくり検討したいものだ。　　（山盛）

2020 年度決算の概要報告

収益は 12,763 千円で、半分以上が皆様からの寄付金収入（6,504 千円）と会費収入（657 千円）でした。寄付金は年々減少傾向にあり、昨年度対比マイナス 1,112 千円となりましたが、会費収入は若干増加しプラス 72 千円でした。そのほか助成金（2,460 千円）や、国のコロナ関連給付金（2,268 千円）を受けることができました。一方、事業費はコロナによる事業活動の制限もあり活発な活動ができなかったため、4,918 千円と昨年度の 6 割ほどの費用となりました。管理費は 3,234 千円で大きな変化はありません。事業費が減ったことによって 4,610 千円の黒字になり、前期繰越金を合わせて正味財産は 7,431 千円となりました。　　（兼松）

編集後記

☆今年に入り食用油の値上げが止まらない。原料の菜種や大豆などの高騰が主な理由だそう。油菜ちゃんは発売以来価格据え置き。ありがたいことです。　　（佳）

☆＜追悼　地球を救った英雄、オレーグさんへ＞

オレーグ・タヴァンスキーさんの訃報に接し、J ファミリーより心から哀悼の意を表します。福島事故 10 周年の「3.11 追悼 ビデオメッセージ」でお顔を拝見したのが、最後となってしまいました。ビデオの編集作業では、何度も何度も動画を再生して、元気なお姿を拝見していましたので、亡くなられたのだという実感が全くありません。私たちがジトーミルを訪れるたび、どんなに忙しくても、必ず顔を出してくださいましたね。その時の笑顔が忘れられません。日本とウクライナの友好があなたに支えられているようで、とても暖かな気持ちになりました。あなたの笑顔を私たちの胸に刻みつけておきます。今まで本当にありがとうございました。安らかに眠ってください。　　（J＆美）

＜オレーグさん（左）と 2016 年撮影＞

〒 456-0022　名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷 「エープリント」
TEL・FAX（052）871-9473